

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)	
事業名	Society5.0実現化研究拠点支援事業			担当部局庁	研究振興局		作成責任者
事業開始年度	平成30年度	事業終了 (予定)年度	令和9年度	担当課室	参事官(情報担当)		参事官(情報担当) 嶋崎 政一
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	未来投資戦略2017(平成29年6月9日 閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2017(平成29年6月9日 閣議決定) 未来投資戦略2018(平成30年6月15日 閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2018(平成30年6月15日 閣議決定)		
政策	8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化			主要経費	科学技術振興費		
施策	8-3 オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-05.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	知恵・情報・技術・人材が高い水準で揃う大学等において、将来社会実装を担う産業界や自治体等と当初から連携しつつ、情報科学技術を核として様々な研究成果を統合し、Society5.0の実証・課題解決の先行事例として先端中核拠点を創成する。これにより、社会課題解決のために社会実装を目指す取組を支援する。						
現状・課題 (5行程度以内)	Society 5.0 実現化研究拠点支援事業では、情報科学技術を基盤として事業や学内組織の垣根を超えて研究成果を統合し、社会実装に向けた取組を加速することにより、Society 5.0の実現を目指す大学等の先端中核拠点を支援することを目的としている。本事業は、平成30年度から令和4年度までの5年間を事業期間としており、「ステージゲート評価」を経て、最大5年間の延長を可能としている。令和4年度に本補助事業に採択された大阪大学の「ライフデザイン・イノベーション研究拠点」について、これを実施し、事業の延長が認められた。 第一ステージ(平成30年度～令和4年度)では、データ蓄積基盤(PLR 基盤)の構築、データ取引所 MYPLR の開設、関連する規約の整備等、データ取引の仕組みを提示した。第二ステージ(令和4年度～令和9年度)では、PLR基盤の外部連携機能や実践的な本人同意の仕組みなどの機能拡張を行うことに加えて、北摂地区の自治体や大阪大学等をフィールドとして、これらの予測技術の社会実装を行う中で、データを連携させていく計画となっているが、データの価値はデータ単体ではなくどのように活用するか の視点が重要であり、これを社会実装の中で得られるかどうか が今後の課題となる。						
事業概要 (5行程度以内)	大学等において、情報科学技術を基盤として、事業や学内組織の垣根を越えて研究成果を統合し、社会実装に向けた取組を加速するため、学長等のリーダーシップにより組織全体としてのマネジメントを発揮できる体制構築を支援する。また、企業等からの本格的な投資の呼び水となることが見込まれる大学等での実証試験等の実施や概念実証に必要な研究費を支援するとともに、社会実装のシステムやマネタイズするスキームを構築するにあたり、(一社)データビリティコンソーシアムを立ち上げ、自治体・企業等から構成される会員と協議し事業を実施する。						
事業概要URL	https://www.ids.osaka-u.ac.jp/ildi/index.html						
実施方法	補助						
補助率等	補助率:定額						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	700.8	700.8	700.8	695.7	630.8
		補正予算(B)	-	-	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
	予備費等(E)	-	-	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	700.8	700.8	700.8	695.7	630.8	
	執行額(G)		701	701	700.8		
	執行率(%) =(G)/(F)		100%	100%	100%		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/{(A)+(B)}		100%	100%	100%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)		研究振興費			各プロジェクトでの取組内容や実施体制の見直しを行ったため。 「重要政策推進枠」:39百万円	
		(目)	人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金	696	631		
			その他	▲ 0	▲ 0		
	計(A)		695.7	630.8			

活動内容① (アクティビティ)		プロジェクトで得られた医療情報や日常生活の活動データ等個人データを収集し活用する各プロジェクトを通じ、パーソナルデータの商業二次利用を可能とする市場取引型情報基盤としてのデータ流通基盤を構築し社会展開を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		産業界や自治体等と連携し、Society5.0の実証・課題解決の先行事例のための拠点を構築する。	拠点の形成数(累計)	活動実績	件	1	1	1	－	－
				当初見込み	件	1	1	1	1	1
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	効果発現の初期段階として、企業、自治体、他の研究機関等の参画機関によって、Society5.0の実証・課題解決に繋がる研究成果が創出され则认为られるため、企業、自治体、他の研究機関等の参画機関数を短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		産学官で共同して基礎研究から社会実装に向けた研究開発を行う。	企業、自治体、他の研究機関等の参画機関数(単年度)	成果実績	件	46	65	63	－	
				目標値	件	35	40	50	65	
				達成度	%	131.4	162.5	126	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		Society5.0実現化研究拠点支援事業推進委員会より聴取								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	企業、自治体、他の研究機関等の参画機関数が増加することで、本事業の支援が終了した後も構築された拠点が自立可能になると考えられるため、企業等との共同研究契約の件数を中期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		支援期間終了後も持続的に発展可能な学内体制や実証システムを構築する。	企業等との共同研究契約の件数(単年度)	成果実績	件	8	20	20	－	
				目標値	件	10	20	30	35	
				達成度	%	80	100	66.7	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		Society5.0実現化研究拠点支援事業推進委員会より聴取								
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	企業等との共同研究契約の件数が増加することで、本事業も目的であるSociety5.0の実現による社会課題解決の状況を把握でき、データ流通基盤が社会に展開されていることになると考えられるため、社会実装された研究開発のテーマ数を長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度	
		拠点の研究開発成果が社会実装される。	社会実装された研究開発のテーマ数(単年度)	成果実績	件	0	3	5	－	
				目標値	件	0	3	5	7	
				達成度	%	－	100	100	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		Society5.0実現化研究拠点支援事業推進委員会より聴取								
アウトカム設定についての 説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

活動内容② (アクティビティ)		プロジェクトで得られた医療情報や日常生活の活動データ等個人データを収集し活用する各プロジェクトを通じ、パーソナルデータの商業二次利用を可能とする市場取引型情報基盤としてのデータ流通基盤を構築し社会展開を行う。(再掲)								
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		産業界や自治体等と連携し、Society5.0の実証・課題解決の先行事例のための拠点を構築する。	拠点の形成数(累計)	活動実績	件	1	1	1	-	-
				当初見込み	件	1	1	1	1	1
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	効果発現の初期段階として、企業、自治体、国際会議開催等のアウトリーチ活動によって、Society5.0の実証・課題解決に繋がる研究成果が創出されることがえられるため、国際会議開催等のアウトリーチ活動件数を短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		産学官で共同して基礎研究から社会実装に向けた研究開発を行う。	国際会議開催等のアウトリーチ活動件数(単年度)	成果実績	件	1	0	0	-	
				目標値	件	1	1	1	1	
				達成度	%	100	0	0	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		Society5.0実現化研究拠点支援事業推進委員会より聴取								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	国際会議開催等のアウトリーチ活動件数が増加することで、本事業の支援が終了した後も構築された拠点が自立可能になると考えられるため、外部資金獲得状況を中期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ②-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		支援期間終了後も持続的に発展可能な学内体制や実証システムを構築する。	外部資金獲得状況(単年度)	成果実績	件	35	77	72	-	
				目標値	件	50	75	100	100	
				達成度	%	70	102.7	72	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		Society5.0実現化研究拠点支援事業推進委員会より聴取								
↓	成果目標②-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	外部資金の獲得件数が増加することで、本事業も目的であるSociety5.0の実現による社会課題解決の状況を把握でき、データ流通基盤が社会に展開されていることになると考えられるため、社会実装のための実証実験の完遂を長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度	
		拠点の研究開発成果が社会実装される。	社会実装のための実証実験の完遂(単年度)	成果実績	件	5	7	12	-	
				目標値	件	1	8	10	15	
				達成度	%	500	87.5	120	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		Society5.0実現化研究拠点支援事業推進委員会より聴取								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

事業に関連するKPIが定められている閣議決定等	名称	-	
	URL	-	
	該当箇所	-	
事業所管部局による点検・改善			
点検結果	・アクティビティ①及び②について、長期アウトカムの測定指標は目標値どおり順調に推移している。一方で、短期及び中期アウトカムについては測定指標の過年度より伸びが停滞している。令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症による経済社会状況の影響により、企業等の参画・共同研究が拡大や、アウトリーチ活動、外部資金獲得が拡大しなかったと考えられる。 ・本事業は、大学等において、情報科学技術を核に様々な研究成果を統合し、産業界等と連携してSociety5.0の実現を目指す取組を支援するものであり、経済的・社会的意義が高いことから、積極的に推進すべき取組である。目標未達の指標はあるものの、本事業で構築したデータ連携基盤を通じ企業との連携を促進するための体制を強化し、目標の達成に向けて着実に進捗している。		目標年度における効果測定に関する評価(令和6年度実施)
	-		
改善の方向性	これまで構築した技術・パーソナルデータを活用し、課題解決のための社会実装を実現し、将来的な事業の自律的な運営に向け、現在の取組を着実に社会実装につなげるべく、ターゲットへのアプローチを見直し、社会実装課題とチャレンジ課題の2本立てとするとともに、後者は2年目に条件を満たさない課題は原則終了として着実な社会実装に向けて取り組んでいく。		
外部有識者の所見			
外部有識者による点検対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見			
事業内容の一部改善	引き続き新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、一部目標に達しなかった部分があったため、成果目標等については事業の成果を適切に測るため一層の工夫が必要と考えられる。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
縮減	本事業は、令和4年度に本事業推進委員会によるスケーリング計画を受け、令和5年度より第2スケーリングが開始された。これに際し、各プロジェクトでの取組内容や実施体制の見直しを行い、令和6年度概算要求においては▲65百万円を反映した。引き続き、コスト削減に留意しつつ、事業の適切な執行に努める。		
過去に受けた指摘事項と対応状況	公開プロセス・秋の年次公開検証(秋のレビュー)における取りまとめ		
	-		
	上記への対応状況		
	-		
	その他の指摘事項		
	-		
	上記への対応状況		
備考			
-			

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位: 百万円)



